

氏名	辻 玲子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	老年看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1994年慶應義塾看護短期大学看護学科、1999大分医科大学医学部看護学科、2001年日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程、2021年宮城大学大学院看護学研究科博士後期課程				
経歴	2012年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本認知症ケア学会（代議員、関東1地域部会委員、査読委員）、日本老年看護学会、日本看護管理学会、日本赤十字看護学会、埼玉県立保健医療福祉科学学会				

【2021年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	都市部の診療所看護師が有するコンピテンシーとその構造	共著	あり		宮城大学研究ジャーナル、1(2)、36-45	國澤尚子、丸山優、畔上光代、水間夏子、辻玲子、大塚真理子
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し介護者支援を行うための看護モデル開発	研究代表者	2018.4~2023.3
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）			認知症高齢者と家族の質の高い継続的な暮らしを目指した研修の社会実装と評価	研究協力者	2018.4~2022.3
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	老年看護学Ⅰ	○	6	学部1年次生に、老年期を生きる元気高齢者から衰弱・病弱高齢者までの一連の流れの中での高齢者の特徴や特性、老年看護の理念や考え方を講義した。		
2	認知症看護		1	学部4年次生に、卒業後の自己研鑽の仕方について（認知症看護認定看護師のことや認知症患者にかかわる多職種の事例検討会への参加等）を講義した。		
3	地域ケア支援論		2	修士過程1年次生に対して、地域における認知症高齢者への看護のアセスメントや援助方法及び認知症高齢者家族への援助方法、認知症高齢者の意思決定支援を講義した。		
4	認知症高齢者看護		2	修士課程1年次生に対して、認知症4タイプの特徴、パーソン・センタード・ケア、認知症高齢者の起こりやすい行動への看護、身体症状のアセスメント方法を講義した。		
5	臨床薬理学（CNS）		3	修士課程1年次生が体験した事例を基に、症状アセスメントや服薬管理の理論への活用、服薬管理困難事例の対応方法、専門看護師の役割についての検討を行った。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	老年看護学Ⅱ(援助技術)		6	・遠隔にて口腔ケア演習を行う為に必要物品を学生に大学来学時に配布し、Zoomライブで、口腔ケアの基礎知識の授業、そしてユーチューブを活用して、自己口腔ケアを誘導し、グループワークにて学びを共有した。(2コマ) ・対面にて、高齢者疑似体験セットを学生に着用させて高齢者体験してもらい、活動能力が低下した高齢者への援助を考えさせ、学びを全体で共有した。(4コマ)
2	老年看護学Ⅲ(看護過程)		6	遠隔にて、老年看護実践に必要な情報の収集、アセスメントの記述、看護上の問題・課題の記述を個人及びグループで行う際、グループを回って質問に回答したりした。
3	老年看護学Ⅳ(地域とケアシステム)		8	遠隔にて、1~6回は、グループワークを行う際にラウンドして、進行状況を確認したり、質問に回答した。7~8回は、「私たちの考える老年看護と地域包括ケアシステム―事例をもとに」を、実習施設ごとの発表会、全体発表会の運営を行った。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	老年看護学実習Ⅰ		2021.4~2021.6 学外実習：4日 遠隔実習：4日 学内実習：12コマ	2年次生18名を担当し、2か所の老人福祉センターにおける元気高齢者とのコミュニケーションを中心とした実習指導を4週間かけて(1人現地1日間+遠隔1日)行った結果、高齢者へのイメージや捉え方が変化した。
2	老年看護学実習Ⅱ		2021.10~2021.12 学外実習：22日 学内実習：16コマ	3年次生22名を対象に、介護医療院を使用して8週間の実習と特別養護老人ホームの遠隔実習を行った結果、看護展開しつつ、高齢者の病状やADL、認知症の症状にあわせた援助や多職種との連携の基礎を学ぶことができた。
3	総合実習		2021.4~2021.8 学外実習：10日 学内実習：8コマ	4年次生2名が、3週間の実習を行った結果、自分の課題と向き合いながら、かつコロナ禍での診療所内の患者及び訪問診療先の患者への看護実践が展開・体験できた。
4	IPW実習		2021.9~2021.10 遠隔実習：4日と2コマ	4年次生6名が、それぞれの学科の強みを生かしつつ、事例の患者・家族の理解が深まり、かつ多職種の考え方の違いを学べるように、施設ファシリテーターと密に連携しながら、Zoom上でも意見交換してチームビルディングができるようにサポートした。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2021.4~2022.1	主指導 4名	副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	老年看護学概論(非常勤講師)	2022.1~2022.3	上尾看護専門学校1年生約40名への講義をZoomライブで14コマ施行	
2	修士課程(老年看護)の研究指導参加	2021.5~2022.3	修士課程1年生2名のゼミに参加し、研究課題の検討を一緒に行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	令和3年度埼玉県介護支援専門員更新・再研修	埼玉県社会福祉協議会	ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の意義	2021.6
2	埼玉未来大学 ライフデザイン科 講義	いきいき埼玉	認知症と生活習慣病(春日部学園、伊奈学園、熊谷学園、川越学園)	2021.6~12
3	関東1地域部会 事例検討会	日本認知症ケア学会	多職種よれば文殊の知恵：架空事例シート、事例検討用紙を作成し送付	2021.10

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	日本認知症ケア学会	関東1地域部会委員	2014.4～現在	
2	日本認知症ケア学会	日本認知症ケア学会誌査読委員	2020.6～現在	
3	日本認知症ケア学会	2022年日本認知症学会・読売認知症ケア賞 第1次選考委員	2022.2	
4	日本認知症ケア学会	未来をつくる子どもたちの作文コンクール2021第1次選考委員	2022.1	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	埼玉県	埼玉県新型コロナウイルスワクチン集団接種場支援	2021.7
2	地域貢献活動	埼玉県	埼玉県草加保健所支援	2021.9, 2022.1～2
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	看護学科カリキュラム検討委員（1年次生向け履修モデル説明会担当）		2019.4～2022.3
2	学生支援	3年次進路担当 就職支援プロジェクトメンバー		2021.8～2023.3
3	学生支援	3年次担任		2020.4～2023.3
4	大学広報活動	2021年度WEBオープンキャンパス模擬講義「老年期を生きる高齢者の特徴」		2021.6～2022.3
5	学長指定プロジェクトへの関与	プロジェクトG「包括的ケアラー支援における支援者間連携に関する基礎的研究」に共同研究者として参画した。		2021.4～2023.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			